

日本社会事業大学実習生 ～えんでの介護実習を終えて～

日本社会事業大学／関根優斗



暮らしネット・えんで訪問介護実習をさせて頂き、在宅生活を継続する上で、身体介護や生活援助を必要とする方々への支援の実際を学びました。在宅は施設と違い、ケアの内容がその時の状況によって変わる場合があります。また自宅の住宅環境や介護用具に合わせ、限られた状況下で介護を行わなければいけません。そのため、訪問介護員の適切な判断能力の重要性を再認識しました。

また同行訪問では、利用者さんの身体的、精神的な状況だけではなく、介護にあたるご家族の負担や経済状況、生活習慣等、様々な要因から生じる介護上の諸課題を目の当たりにしました。その人らしい在宅生活を継続する難しさを実感するとともに、訪問介護員の皆様の対応から利用者様の意思を尊重した関わり方について学びました。特に「自分でものごとを決めることが、その人らしく生きることに繋がる」と助言をいただき、常日頃から言葉や様子を見ているからこそ、本当の利用者様の意思を引き出し、自己決定することに繋がっているのだと思いました。これまでの人生や経験を尊重し、何故その発言をしたかを考えることの大切さをご指導いただきました。

訪問介護実習を暖かく受け入れて下さった利用者様、ご家族様、職員の皆様に心より感謝申し上げます。これからも利用者さんに寄り添い、尊厳を守る対応を心がけて精進してまいります。

日本社会事業大学／深田里歩



暮らしネット・えんで実習をさせていただき、地域に住む高齢の人や障がいのある人、支援を必要としている人たちが、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援の実際を学びました。実習させていただく中で、利用者さんと職員の皆様との関係性の深さを感じております。利用者様の中には、なかなか困っていることを言えなかったり、ご本人が大変な状況を理解しきれていなかったりするケースも多いと思います。しかし、信頼できる関係性があるからこそ、困っていることを職員に言えたり、職員が利用者さんの小さな変化に気づくことができたりするのではないかと思います。訪問先の多くの利用者様は口をそろえて、「本当に良くしてもらっているのよ」、「(困っていることに)良く気付くから助かるのよ」と仰っていました。グループホームやデイホーム、小規模多機能ホームでの実習もさせていただき、そちらでも利用者さんそれぞれの過ごし方を大切にされ、一人ひとりの想いを尊重した支援の実際を学ぶことができました。身体の衰えや一人での生活等、様々な不安を抱えている利用者さんに寄り添い、ご本人だけでなくそのご家族も安心した生活を送ることができるための支援について、これからも学んでいきたいと思っております。

実習を受け入れて下さったえんの利用者さん、ご家族の皆様、ご指導いただきました職員の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。えんの皆様がとても温かく、アットホームな環境での実習をさせていただいて、とても嬉しく思います。本当にありがとうございます。